

特殊報

奈良県病虫害防除所長

令和元年度病虫害発生予察特殊報

1. 病虫害名 クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* (Faldermann)

2. 対象作物 モモ、ウメ、オウトウ、スモモ、サクラ等

3. 特殊報の内容 本県における農作物での初発生を確認

4. 発生地域 奈良県中和地域

5. 発生確認の経緯

- (1) 令和元年7月中旬に奈良県中和地域のモモ生産園で本種と疑われるカミキリムシ科雌成虫が捕獲されました。
- (2) 神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県で農作物に未発生のカミキリムシ科雌成虫と同定されました。
- (3) 捕獲されたモモ園では、本種の加害によると思われるフラス（糞と木くずが混ざったもの）の排出が確認されました。

6. 分布と生態

- (1) 本種は中国原産と考えられ、国内では、2012年に愛知県で発生が確認されました。その後、徳島県、大阪府、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都からも発生が報告されており、サクラ、モモ、ウメ、スモモでの被害が発生しています。
- (2) 卵は樹幹部の樹皮の割れ目などに産み付けられ、幼虫は樹皮の下にある形成層を食害して成長後、樹の内部に食入します。このとき、大量のフラスを排出します(写真1)。フラスは若齢幼虫では中華麺程度の太さですが、成長に従って、うどんのように太いフラスが排出されるようになります。
- (3) 幼虫の状態越冬し、春に入ってから蛹化し、6月中旬頃から成虫となって樹外に脱出を始めます。国内では、7月上中旬に脱出のピークを迎え、8月上旬頃まで脱出が続くという報告があります。

7. 形態と被害

- (1) 成虫の体長は28～37mmで、光沢のある黒色の体に、赤色の前胸背板のコントラストが特徴です。前胸背板の側面には1対のとげ状のこぶがあります。触角は体長と同じくらいかそれよりも長くなっています（写真2）。
- (2) 幼虫が樹の内部を食害し、多発すると樹勢が衰えて枯死に至ることから、発生地域では問題化しています。

8. 防除対策

- (1) 成虫を見かけた場合は直ちに捕殺します。
- (2) 樹幹からフラス排出が認められる場合は、可能であれば、被害拡大を防止するために伐採してください。伐採が困難な場合は、スプレータイプの殺虫剤（下表）を使用します。あらかじめ針金や千枚通しなどで食入孔からフラスをできるだけかき出し、薬液を内部まで届きやすくしてから、ノズルを食入孔に差し込んで薬液を噴射します。幼虫が大きくなると効果が劣るので、フラスを確認したら直ちに防除します。また、食入孔の奥には薬液が入りにくいので、処理後も数日おきに観察し、新しいフラスの排出が見られたら同様の処理を行います。
- (3) 被害樹からは防除し切れなかった虫が羽化・分散して、次の発生源となる可能性があります。スプレー剤の処理後に、株元から1～2m程度の高さまで4mm目合いのネットを巻き付けて、羽化した成虫が分散するのを防ぎます。また、設置後には見回りをし、成虫を見つけたら捕殺します。
- (4) フラスの排出箇所が多い場合や、薬剤処理でフラス排出を止められない場合は、被害拡大を防止するために伐採します。伐倒木には生きた幼虫が残っている可能性があります。特定外来生物に指定されているため保管や移動に規制がかかります。伐採する場合は伐倒木の処理方法について病虫害防除所にご相談下さい。
- (5) 散布剤（下表）は、成虫に対する効果が期待できますので、成虫が発生する6～8月に、登録内容に従って主に樹幹部や主枝を狙って散布します。
- (6) 栽培園地内で本種成虫や上記の被害を見つけた場合には、直ちに病虫害防除所もしくは管轄の農林振興事務所にご連絡ください。また、公園等の桜並木など、栽培園地以外での発生を見つけた場合は、市町村の環境部局等にご連絡ください。

表. クビアカツヤカミキリの主な防除薬剤

農薬名	作物名	希釈倍率	使用方法	使用時期	使用回数	散布液量
散布剤						
アクセルフロアブル	うめ	1000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	200～700L/10a
	さくら	1000倍	散布	成虫発生直前～成虫発生期	6回以内	200～700L/10a
アクタラ顆粒水溶剤	もも	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	200～700L/10a
	ネクタリン				2回以内	
	おうとう			収穫7日前まで		
	小粒核果類					
スプラサイドM	もも	200倍	樹幹部及び主枝に散布	収穫60日前まで	2回以内	100～180L/10a
スプラサイド水和剤	うめ	1500倍	散布	収穫14日前まで	2回以内	200～700L/10a
	すもも			収穫21日前まで		
	もも					
テッパン液剤	もも	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	200～700L/10a
	すもも					
モスピラン顆粒水溶剤	小粒核果類	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	200～700L/10a
	もも			発生初期	5回以内	
	さくら					
マツグリーン液剤2	さくら	200倍	散布	発生初期	5回以内	200～700L/10a
スプレー剤						
園芸用キンチョールE	さくら	—	食入部にノズルを差し込み、薬液が食入部から流出するまで噴射する	—	—	—
ロビンフッド ベニカカミキリムシエ アゾール	果樹類※	—	樹幹、樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内	—
	樹木類			—	6回以内	

※果樹類：いちょう（種子）、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき（種子）を除く
 農薬に関する情報は、令和元年7月24日現在の登録内容に基づいて記載しています。



写真1. 排出されたフラス



写真2. クビアカツヤカミキリ雌成虫

お問い合わせは

奈良県病害虫防除所
 TEL. 0744-47-4481

病害虫防除所ホームページ
<http://www.jppn.ne.jp/nara/>